

【 個展について 】

川野美華 展 " Sphinx "

2026年 3月7日(土) - 3月31日(火)

会場: AteliermultimediaGalerie

Kinderspitalgasse 13, 1090 Wien, österreich

オーストリア ウィーン9区にあるギャラリー、AteliermultimediaGalerieにて、油彩画15点と現地で描いたドローイング5点の計20点を展示。2019年以来7年ぶり2回目となるウィーンでの個展を開催しました。

3月7日にはオープニングパーティーが行われ、オーストリア・フランス・ドイツ・スロバキア・ポルトガル・イタリア・日本など様々な国籍やルーツをお持ちの多くの方々にご来場いただき、賑やかで盛況な幕開けを迎えることができました。

今展示の表題作「スフィンクス」は、クリムト「キス」セガントーニ「悪しき母たち」などの名画が所蔵されている、ベルベデーレ宮殿の中庭に並んで鎮座しているスフィンクス像からインスピレーションを得て描いた作品です。

24年前、大学の海外研修旅行ではじめてウィーンを訪れた際、雪で真っ白なベルベデーレ宮殿で微笑みながら来館者を見張るように並んだ、スフィンクス像の静かな美しさに強く惹かれたことを今でも鮮明に覚えています。長い時間を経て、ウィーンであの時もらったインスピレーションを絵画として咀嚼し私らしく表現できたことに大きな充足感を覚えました。

また今展示会は展示方法にも工夫を加えました。すべての出品作は油絵で制作していますが、額装のかわりに掛け軸と風鎮を用いたり、「スフィンクス」の両側に仁王像のように「阿・吽」を配置することで神社の参拝に見立てるなど、作品の内容と合わせて日本文化にも触れていただけるように仕掛けをしました。もう一つの工夫は1度目のウィーン個展の経験をいかし、作品一枚一枚にドイツ語で説明文を書いたことです。言語の壁がある中で、深く鑑賞してもらうために必要な導入になったように思います。

ありがたいことに想像より遥かに多くの方にご来場いただき、異国の地で私の絵画を楽しんでいただけたことに、改めて絵を描いてきてよかったと思えた、尊く幸せな経験となりました。



アンドレア氏と一緒に。 表題作「スフィンクス」



オープニングパーティー会場の様子。



## 【 音楽の世界から 】

今回のウィーン滞在では、音楽分野の観点から絵画表現を捉え直すことも多くありました。2024年制作の「食卓浮かぶ母」「パパゲーノ」はオペラ「魔笛」から強い共感と動機をもらい描いた作品です。とても幸運なことにVolksOperでオペラ「魔笛」を観覧することができました。トラディショナルとは正反対の完全に現代版にアレンジされた舞台上、作品の持つ大切な魂を守りながらどこまで伝統を壊せるのか、舞台美術から演出・演奏、役者達の全てが斬新な切り口から芸術の再定義に挑戦をしているようでした。

また友人のピアニスト良子 von Busekist氏のご自宅で、一対一でピアノ演奏を聞かせていただきました。彼女の演奏する後ろ姿は表現者としての気迫に満ちていて、音楽と美術、表現の形は異なるけれど、これから先も絵を描き続けるために必要なヒントと勇気をいただけた気がしました。



VolksOperでオペラ「魔笛」ポスター。



良子さんのピアノルーム。

## 【 アールブリュット教室 】

展示会場AteliermultimediaGalerieのオーナーであるアンドレア氏はギャラリストとは別に、体や精神に問題を抱え人々にむけて美術教室を開講し、アートを通して生き甲斐をつくる仕事をしています。研修期間中はアンドレア氏の美術教室を何度か訪問し、そこで授業をしている教師や生徒達と作品について談笑し合い、アトリエでの制作の様子を見学して一緒にフレンドリーな時間を過ごしました。



アンドレア氏の美術教室の様子。



## 【 ドイツ(ミュンヘン)・ウィーン近郊都市研修 】

研修中はドイツ・ミュンヘンやウィーン近郊都市のバーデンやクロスターノイブルクなどに遠征しました。各地の美術館はもちろん、小さいものから大きなものまで様々な教会を訪れました。20代の頃から「受胎告知」や「聖アントニウスの誘惑」など荘厳な宗教絵画を独自のアトリビュートで描くことを大きなテーマに据えています。教会では時間をかけて、建築・構造的な美しさ、祈りのために飾られた絵画・彫刻をじっくり取材し、ドローイングを重ねました。今回得た貴重な取材を今後の制作に繋げてまいります。

バーデンの教会 Stadtpfarrkirche St. Stephan.

ミュンヘンの美術館、Pinakothek der Moderne.



## 【 ウィーンでの絵画制作 】

研修中盤を過ぎたあたりから本格的に油彩での制作を始めました。今回の研修では多くのインスピレーションをいただいたので、新鮮なうちに描きたい気持ちが強く、7年前の留学時友人に預かってもらっていた油絵の具などの画材がそのまま手元にあったことも幸運でした。小さい絵画ですが期間中6枚の油絵を描き始め、2026年4月17日からの東京での個展にその中から数点出品することが決まりました。

この度のウィーン研修で得たものは非常に大きく、今後の制作の深化や作家活動に直に生きていく経験ばかりでした。おかげさまで暖かい人々に囲まれた素晴らしい旅となりました。貴重な機会をいただき感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



ベルベデーレ宮殿のスフィンクスと一緒に。



ウィーンの小さなアトリエ。